

## 5 戦略

Hondaのサステナビリティ	14
持続的な成長のために	15
2030年ビジョン	16
マテリアリティ分析	17
サステナビリティマネジメント体制	18
— ステークホルダーエンゲージメント	19
研究開発	22
イノベーションマネジメント	23

## ステークホルダーエンゲージメント

## 基本的な考え方

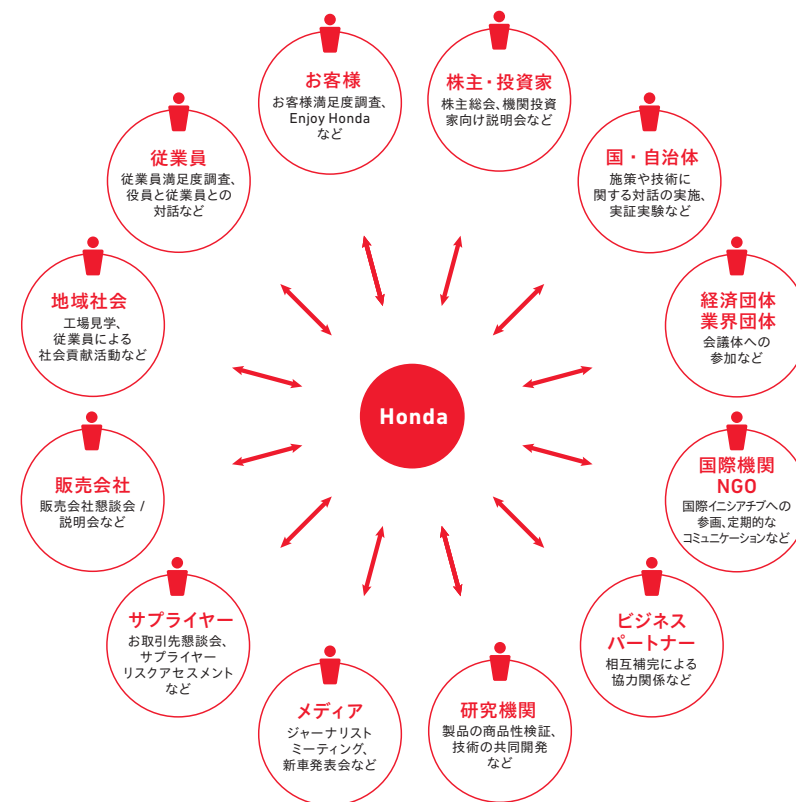
Honda が社会から「存在を期待される企業」となるためには、コミュニケーション・サイクルを実践していく必要があります。それは、Honda がどのような価値を社会に提供しようとしているのかを適宜・的確に伝えるとともに、多様なステークホルダーのHonda に対する要請や期待を把握・理解し、具体的な施策に落とし込み、その評価を受けるという仕組みです。

とりわけ近年は、事業の規模拡大やグローバル化に加え、ITの急速な普及によって、企業活動が社会に及ぼす、また社会が企業に及ぼす影響の大きさと範囲が広がっており、そのスピードも加速しています。そんななか、「ステークホルダーとの対話」は、Honda の取り組みに対するより正しい理解につながるるとともに、社会環境の変化やリスクを把握できる有益な手段でもあると考えています。

こうした認識のもと、Honda はグローバルで、さまざまな機会を通じて対話を実施しています。この対話は、Honda のステークホルダーのなかでも、右図の主要なステークホルダー（Honda の事業活動により影響を受ける、もしくはその行動が事業活動に影響を与えるもの）と社内各部門との間で行っています。例えば、株主・投資家とのエンゲージメントでは、シェアホルダー（株主）リレーションズと、インベスター（投資家）リレーションズを通じて、Honda をより正しく理解してもらえよう対話を行っています。

また、代表的な ESG 評価機関や NGO との対話から得られた意見を「マテリアリティ分析」（⇒ p.17）に反映させ、Honda が取り組むべき課題の特定に役立てています。

## ステークホルダーエンゲージメント



## 5 戦略

Hondaのサステナビリティ	14
持続的な成長のために	15
2030年ビジョン	16
マテリアリティ分析	17
サステナビリティマネジメント体制	18
<b>— ステークホルダーエンゲージメント</b>	<b>19</b>
研究開発	22
イノベーションマネジメント	23

## ステークホルダーエンゲージメント

## 外部団体との協働

Honda は、グローバルなモビリティカンパニーとしての責任を果たしていくために、政府をはじめ経済団体や業界団体との対話を推進するとともに、外部団体との協働を行っています。日本においては一般社団法人日本自動車工業会の副会長職や委員会委員長職、委員、公益社団法人自動車技術会の会長職、東京商工会議所の副会頭職を引き受けています。

また、IMMA<sup>※1</sup> や OICA<sup>※2</sup> といった二輪車、四輪車の国際団体においても、技術委員会などの議長を各業界団体の代表として務めています。さらに WEF<sup>※3</sup> や、WBCSD<sup>※4</sup> への加盟を通じて、サステナビリティに関するイニシアチブとも協力しています。

なお Honda の各地域における事業執行にあたっては、各地域が自立性を高め、迅速な意思決定を行うため、一定の範囲内で権限を委譲しています。政治献金を行う場合は、各国の法令に基づき、社内の必要な手続きを経て行っています。

※1 IMMA : International Motorcycle Manufacturers Association (国際二輪車工業会) の略。

※2 OICA : Organisation Internationale des Constructeurs d'Automobiles (国際自動車工業連合会) の略。

※3 WEF : World Economic Forum (世界経済フォーラム) の略。

※4 WBCSD : World Business Council for Sustainable Development (持続可能な開発のための経済人会議) の略。

## 5 戦略

Hondaのサステナビリティ	14
持続的な成長のために	15
2030年ビジョン	16
マテリアリティ分析	17
サステナビリティマネジメント体制	18
— ステークホルダーエンゲージメント	19
研究開発	22
イノベーションマネジメント	23

## ステークホルダーエンゲージメント

## 外部評価

## 企業の持続可能性の指標

## 「Dow Jones Sustainability World Index」の構成銘柄に選定

2018年9月、Hondaは社会的責任投資の代表的な指標であるDJSI※1の評価において、全世界における自動車セクターの上位5社に入り、「Dow Jones Sustainability World Index」の構成銘柄に2年連続で選定されました。また同時に、アジア・太平洋地域の「Dow Jones Sustainability Asia/Pacific Index」の構成銘柄に4年連続で選ばれています。

DJSIは、米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobecoSAM社によって運営されている投資指標です。経済・環境・社会の3つの側面から世界の主要上場企業のサステナビリティを評価し、総合的に優れた企業を構成銘柄として選定しています。

MEMBER OF

**Dow Jones  
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM ●●

## RobecoSAM社によるサステナビリティ評価にて「Bronze Class」に4年連続選定

HondaはスイスRobecoSAM社によるサステナビリティ企業評価「Sustainability Award 2019」において、「Automobiles」セクターの「Bronze Class」に4年連続で選定されました。RobecoSAM社は、経済・環境・社会の側面から、世界約2,500の企業のサステナビリティ評価を行い、毎年、各セクターの評価上位企業を「Gold Class」「Silver Class」「Bronze Class」として発表しています。



## 「CDP Japan 500 Climate Change Report 2018」において「A-」を獲得

2019年1月、CDPは、世界の大手企業約5,000社を対象に実施した、各企業の地球温暖化対策やGHG※2排出量削減への取り組みの調査結果を発表しました。

Hondaは、そのなかの1カテゴリーである「CDP Japan 500 Climate Change Report 2018」にて、リーダーシップレベルのスコアである「A-」を獲得しました。

CDPは、企業や都市の重要な環境情報を測定・開示・管理し、共有するためのグローバルなシステムを提供する国際的な非営利団体であり、企業の環境問題への取り組みレベルを「情報開示」「認識」「マネジメント」「リーダーシップ」の4段階で評価しています。

CDP評価指標である気候変動関連財務情報開示タスクフォース(TCFD※3)で要求されている項目については、パフォーマンス報告の環境(⇒p.41)をご参照ください。

※1 DJSI: Dow Jones Sustainability Indices (ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス)の略。

※2 GHG: Greenhouse Gas (温室効果ガス)の略。

※3 TCFD: The FSB Task Force on Climate-related Financial Disclosuresの略。